

2017年5月25日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 460

クラウドファンディング活用による外部資金獲得方策の進化と実際  
～寄附活動の多様な強化／CF支援組織／研究・事業資金調達の実績～  
ご参画・ご派遣のお願い

インターネットで広く資金を募る「クラウドファンディング」はもはや定番となりつつあります。米国マス・ソリューション社の調査によると、世界のクラウドファンディングは年2倍以上のペースで膨らみ、調達規模は2015年時点で約340億ドルに達します（『日本経済新聞』5月23日付朝刊）。最近でも、この手法で運営資金の募集をしていた雑誌専門図書館「大宅壮一文庫」が、募集開始から3日目で目標額の500万円を達成しました（募集は6月末まで続けるとのこと）。

大学においても、授業料・補助金・公的競争資金・寄附金に次ぐ、第5の収入源として、この手法を取り入れ、研究や事業に必要な資金を集める事例は近年急増しております。「研究型」の資金獲得だけではなく、様々なプロジェクトを支援する「プロジェクト型」、図書費の充実などの「機関運営型」、また、「学生支援型」といった様々なクラウドファンディングが既に実践され成果を上げつつあります。

「クラウドファンディング」の本質は、資金集めだけではなく、教員・研究者や学生が“自分たちはこのような研究活動・社会活動をしている”というプロモーションとして、そして、自分たちが行う研究や事業に向けた志に共感する“ファン”を生む場と考えることができるのではないのでしょうか。

本セミナーでは、日本の寄附文化・風土の最前線の団体や「クラウドファンディング」を活用した資金獲得方策支援の企業・団体のキーパーソンをお招きして、ホットな動向とともに、ご講義を賜わります。

日本ファンドレイジング協会の鶴尾氏からは、「ファンドレイジング」をキーワードに、寄付等「善意の資金」10兆円時代の実現に向けて、そして大学がその中で果たせる役割について、基調となるご講義を賜わります。

我が国で初めての研究費獲得に特化したクラウドファンディングサイト「academist」を運営しているアカデミスト社の柴藤氏からは、サイトの特徴やこれまでの事例の紹介、さらに今後の展望について、ご講義を賜わります。

徳島大学から生まれ、他の大学も参加できるクラウドファンディングサイト「Otsucle」を運営する一般社団法人大学支援機構の佐野氏からは、研究だけではなく、事業に関する資金の調達、そして、徳島大学における先進事例をご報告いただきます。

筑波大学の学生・教員・卒業生に特化し、筑波大学の卒業生が運営する“学生支援型”のクラウドファンディングサイト「筑波フューチャー・ファンディング」の佐々木氏からは、サイト設立の経緯や運用開始から3年間の実績、そして今後の展開について、ご報告をいただきます。